

令和4年9月30日

大阪国際がんセンターの医療安全に係る監査委員会 実施報告

地方独立行政法人大阪府立病院機構
理事長 遠山 正彌 殿

大阪国際がんセンター
総長 松浦 成昭 殿

大阪国際がんセンターの医療安全に係る監査委員会
委員長 北村 温美

大阪国際がんセンターの医療安全に係る監査委員会設置要綱第8条第1号に基づき、監査を実施しましたので、以下のとおり報告します。

1. 監査の方法

大阪国際がんセンター（以下、当センター）における医療安全に係る業務の状況について、以下のとおり管理者等からの聴取及び資料の閲覧等の方法によって説明を求めることにより、監査を実施した。

2. 監査の実施日並びに出席者

《開催日時》 令和4年9月30日（金） 14:00～15:30

《開催方法》 大阪国際がんセンター 5階 総長会議室

《出席者》 監査委員 北村 温美（委員長） 大阪大学医学部附属病院中央クオリティマネジメント部副部長
三浦 潤 弁護士
三木 祥男 大阪府がん患者団体代表
センター 谷上 博信 医療安全管理責任者・副院長
梅下 浩司 医療安全管理部門長・医療機器安全管理責任者
綱島 和子 医療安全管理者・副看護部長
吉田 智江 医療安全管理者・医薬品安全管理責任者・副薬局長
（庶務）岩永 大輝 総務・広報グループ主事
中前 友花 総務・広報グループ主事

3. 監査の内容及び結果

(1) インシデントレポートの活用 (『グッドジョブ賞』) について

当センターでのインシデントのレベル別の報告実績及び事例の内容分類、およびそれらの報告に対する医療安全部門の対応 (調査・分析、報告者へのフィードバック) について報告があった。

インシデントレポートは組織の安全向上の基盤となるものであるが、職員はレポートを入力することを懲罰的に捉えていることが判明した。そこで、電子カルテのアンケート調査機能を活用し、未然にエラーを防いだ数事例を提示し、その中から最も「グッドジョブ」と思うものを職員が投票し、最多得票事例に関わった職員を表彰するグッドジョブ賞の活動を開始したところ、職員が積極的に事例から学び、安全対策を提案する等の安全意識の向上が見られていることが報告された。

(2) RRS 導入後の活動実績および課題について

RRS について、当センターでは、2020年3月に13階SN病棟より試験導入を行い、2021年1月から全病棟へと対象を拡大したが、2022年4月まで活動実績がない状況であった。そこで、2022年5月中旬～下旬にかけてRRSに関する意識調査を行ったところ、新人職員がRRSを認識していないこと、医師の認知度が低く、看護師は医師の了承なしに呼べないと認識していること等が判明した。これを受けて、職員へRRSの要請方法及びRRS要請には医師の了承が必要ないことを再周知したところ、2022年5月から8月にかけて、月2～4件の要請実績となったことが報告された。また、RRSの稼働時間が平日日中のみであり、夜間・休日に要請できないため、今後改善を検討する予定である旨の報告があった。

4. 総括

当センターの医療安全に係る業務について監査を実施した。

報告のあった2つの取り組みはいずれも、医療安全部門と現場職員の意識のギャップを小さくする良い取り組みである。

グッドジョブ賞については、医療安全に現場をうまく巻き込み、現場職員が楽しみながら安全について考える機会となる良い取り組みであると考えられる。グッドジョブの背景には、日常臨床業務にリスクが潜んでいることが示されているので、それらを把握し分析、改善する機会として活用することが重要である。

また、RRSは死亡率を減らすことが示されており、その運用実績を重ねることが重要である。特定行為看護師をRRS要員として配置予定である等、長期的展望を持って病院として取り組んでいることは評価される。さらには、RRSの振り返り結果を現場にフィードバックすることが、職員の意識向上につながると考える。